

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 63人

② 算数 63人

5 留意事項

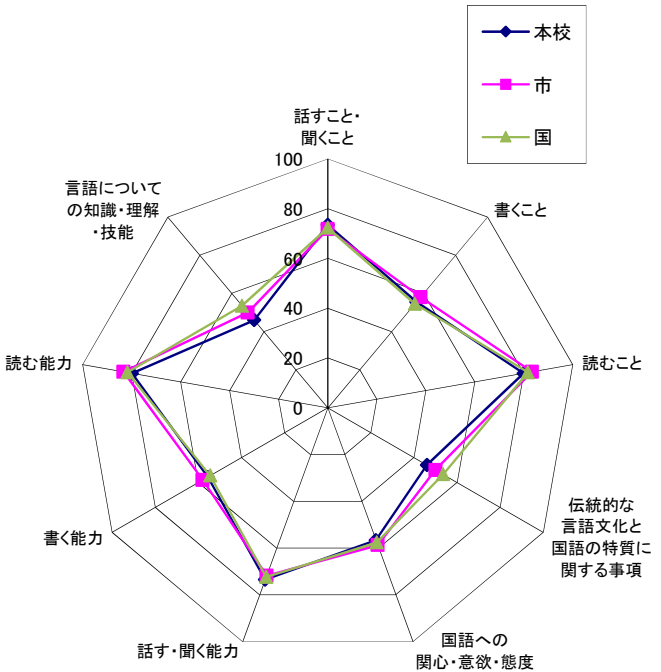
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.5	71.8	72.3
	書くこと	55.5	58.0	54.5
	読むこと	79.9	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	46.0	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	56.6	58.7	57.6
	話す・聞く能力	73.5	71.8	72.3
	書く能力	55.6	58.0	54.5
	読む能力	79.9	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	46.0	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

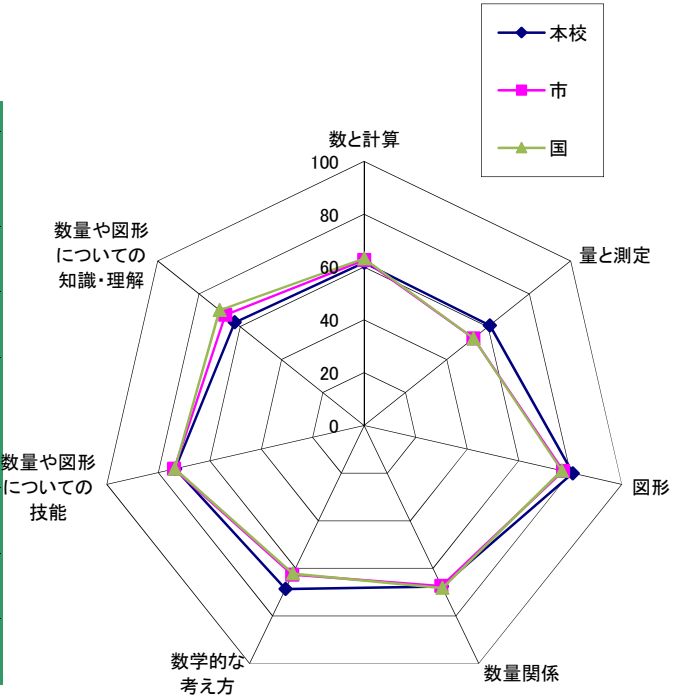
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○全体の平均正答率は73.5%と、市の平均より2ポイント上回っている。 ○目的に応じて質問を工夫する問題や、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題の正答率も市や全国の平均を上回った。 ●話し手の意図を考えながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問をする問題の正答率は市や全国の平均を下回った。	・視点を与えた話し方・聞き方を取り入れた授業を意図的に行い、目的に応じて質問することのできる力や質問の意図を適切に捉えて答えることのできる力を身に付けられるようにする。 ・朝の会での1分間スピーチや、話のテーマに対してグループで話し合う場を継続して設けるとともに、国語の授業だけでなく、学級活動等においてスピーチや討論する場面を意識的に設定し、話し手・聞き手、それぞれの立場から意見や思いを積極的に理解し合う経験を積ませる。
書くこと	●全体の平均正答率は55.5%と、市の平均より2.5ポイント下回っている。 ○情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題では10ポイント近く市や全国の平均を上回っている。 ●目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題の正答率が低かった。	・グラフなどの資料を用いた意図を捉える問題の正答率があまり高くないので、国語の授業だけでなく他教科の学習とも関連を図りながら、文章以外の資料を適切に取り取るスキルを身に付けさせるとともに、読み取ったことが効果的に伝わる文章表現力を高められるよう、書く機会を意図的に設定し、経験を重ねられるようにする。 ・今後も日記指導を継続させて行い、作文だけでなく、新聞作りや学習の振り返り等、いろいろな場面を通して自分の考えや感想などを文章で表現する機会を増やし、目的に応じた文章表現の技能を高める。
読むこと	●全体の平均正答率は79.9%と、市の平均より3.4ポイント下回っている。 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして読む問題では、2問中1問は市や全国の平均正答率を僅かに上回った。 ●前述の問題の残り1問の正答率は市や全国の平均を下回った。	・日々の読書を奨励し、より充実した読書体験をもたせ、読解力を高めていく。 ・説明的文章では、指示語や接続語の役割に目をつけさせ、文の主旨や内容を理解させるように指導する。 ・日頃から新聞記事や辞典、図書などを授業の中で活用し、必要な情報を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする学習を意図的に取り入れる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●全体の平均正答率は、46.0%と市の平均より4ポイント下回っている。 ○「ことわざの意味を理解して、適切な表現を選択する」の問題では、正答率は73.0%と県や市と同じくらいであった。 ●特に文章にあった漢字を書く問題で正答率が低く、「対象」の「しょう」が正しく書けなかったり、「関心」を「感心」と記述したりするなど、定着が十分とは言えない。	・前学年までに学習したことも含めて、繰り返し練習を行ったり、ミニテストやまとめのテストを実施したりして、確実に習得できるようにする。 ・学習した漢字を繰り返し練習するだけでなく、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるようにしていく。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	61.7	62.7	63.2
	量と測定	60.8	52.9	52.9
	図形	81.0	77.3	76.7
	数量関係	67.6	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	68.7	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	73.4	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	62.7	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○比較する量が、もとにする量の約何倍かを棒グラフから読み取る問題の正答率は市や全国の平均を上回っている。 ○示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び立式する問題の正答率は市や全国の平均を大きく上回った。 ●加法と乗法が混合した整数と小数の計算の正答率は、市や全国の平均を下回った。 ●除法で表された二つの数量の関係の理解が市や全国	・小数および整数の四則計算について、計算の能力を伸ばせるよう反復練習をさせるとともに、授業や家庭学習で習熟する機会を増やす。 ・文章題を読んで立式する際には数直線を書き、それぞれの数量が何を表しているのか考えるよう習慣づける。
量と測定	○市や全国の平均を大きく上回っている。 ○示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題の正答率が市や全国の平均よりも18%以上高かった。 ●資料の特徴や傾向と関連づけて数量の増減を判断し、その理由を書く問題の正答率が低かった。	・多様な問題に取り組ませ、何を求めるのか線を引かせたり、図に表したりして思考力を育てていく。 ・単位量あたりの大きさは、問題を解く上で何を単位としているのか理解することが難しいので、重点的に復習するとともに正解を求める過程を数直線や図を用いて説明する機会を授業の中で増やし、考え方を説明できるようにしていく。
図形	○市や全国の正答率の平均を4%ほど上回っている。 ○台形についての理解は98%を上回るという高いものだった。 ●図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する問題では市や全国の平均を上回ってはいないものの正答率は60%台である。	・授業に、図形を構成したり分解したりしながら操作する活動を多く取り入れ、実感を伴った理解に結びつくようにする。 ・図形の性質の復習をし、性質を確実に覚えられよう、視覚的な教材の利用を工夫して習熟を図る。
数量関係	○棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る問題では98%を上回る高い正答率だった。 ○問題解決に必要な伴って変わる二つの数量を選ぶ問題の正答率が市や全国の平均を上回っている。 ● $1800 \div 6$ は何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ問題の正答率が27%と低く、市や全国の平均を下回った。	・2つの数量の関係を求める学習では、問題場面をイメージさせたり図に表させたりして、関係を見つけられるようにしていく。 ・授業中だけでなく朝の学習や家庭学習を活用し、既習事項の復習を継続して行うようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「起きていますか」の肯定的回答が、全国・県の平均を上回っていることから、家庭での児童への規則正しい生活への意識づけが十分行われていることがうかがえる。家庭への呼びかけを継続したい。

○「先生は、よいところを認めてくれていると思いますか」「自分にはよいところがあると思いますか」に対する肯定的回答が全国・県の平均に比べて高かった。これからも児童一人一人のよい面を認め、伸ばしていきたい。

○「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」「学級のみんなで決めたことに協力して取り組み、うれしかったことはありますか」「学校に行くのが楽しいと思いますか」に対する肯定的回答が全国の平均を上回っている。このことから、安心して学校生活を送っていることがうかがえる。さらに一人一人の取組を認め、励まし合えるような人間関係作りに努めていきたい。

●「家で自分で計画を立てて勉強していますか」に対する肯定的回答は、全国の平均を上回っているものの、県の平均をわずかに下回っている。家庭学習や自主学習の進め方について丁寧に指導するとともに、授業における学習指導について工夫を重ね、改めて指導していきたい。

○学校の授業時間以外に、普段(月～金)で1日あたり30分以上読書をしている児童は約半数を占めている。その反面、10分以下の児童も約30%を占めている。学校図書館や地域の図書館を利用している児童の割合は、県・全国の平均よりも非常に高かった。このことから、日常的に読書に親しめるように、恵まれた環境をいかして指導を充実させていきたい。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に対する肯定割合が全国の平均を上回っている。このことから、学校行事への地域の方々の熱心な協力や地域の行事が身近にある本校のよさの反映でもあり、それを児童もしっかりと学び取っていることが伺える。感謝の気持ちをもち、地域を担う一員として自覚を今後も高められるようにしたい。

○「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考え深めたり、広げたりすることができていると思いますか」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」への肯定的回答が全国平均を上回っており、友達と意見交換をしながら考えを深めることへの意欲が高まっていることが伺える。また、教科での学びが総合的な学習の時間でいかされている。

宇都宮市立昭和小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
振り返りの充実	授業において認め励ます指導に努めるとともに、振り返りの学習活動における自己評価や相互評価を工夫し、児童が自らのよさへの自覚を深められるようにする。	「先生は、よいところを認めてくれていると思いますか」「自分にはよいところがあると思いますか」に対する肯定的回答が全国・県の平均に比べて高かった。授業の振り返りでの認め励ます指導を継続していく。
主体的な家庭学習の習慣作り	学校全体の学力アップ月間を設け、家庭学習の充実を含めて家庭にも啓発資料などを作成し、協力を呼びかける。	「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答が、73.0%と全国よりはやや高くなっているものの、県の平均をわずかに下回っている。家庭学習や自主学習の進め方について丁寧に指導するとともに、授業における学習指導について工夫を重ね、改めて指導していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

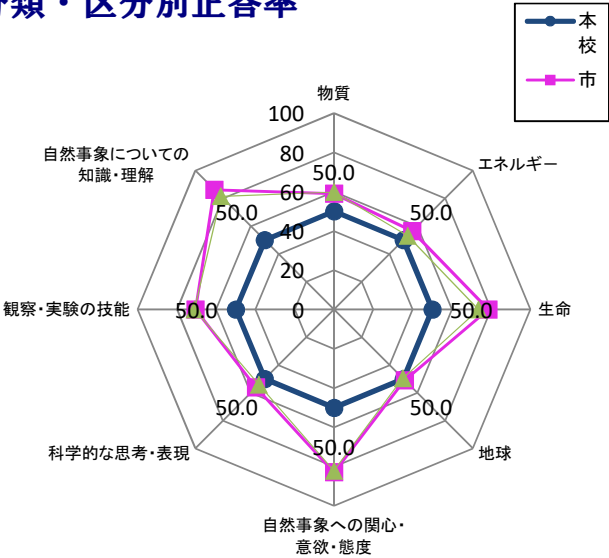
調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
書く力の向上	情報を整理しながら条件に応じた文章を書く場の設定	学年に応じて、学習した文章の構成や言葉の選択などを、自分の文章にも表すことができるよう書く活動を取り入れていく。また、学習の振り返りの時間に、キーワードや条件などを設定して書くようにしたり、児童の振り返りを紹介したりして、書く内容の充実を図る。
相手の話や文章に対して、自分の考えをもち表現する力の向上	目的に合った表現方法や表現内容を身に付けさせる活動や場の設定の工夫	話を聞いたり文章を読んだりする際に、考え方や聞き方の方法(比較しながら聞く、考えを友達と共有する)を意識的に指導し、自分の考えとつなげて考える機会を設けるようにする。

宇都宮市立〇〇〇小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	50.0	59.0	59.8
	エネルギー	50.0	56.4	53.1
	生命	50.0	78.6	73.6
	地球	50.0	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	50.0	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	50.0	56.1	54.1
	観察・実験の技能	50.0	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	50.0	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
今後の指導の重点

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	○ ●	
エネルギー		
生命		
地球		